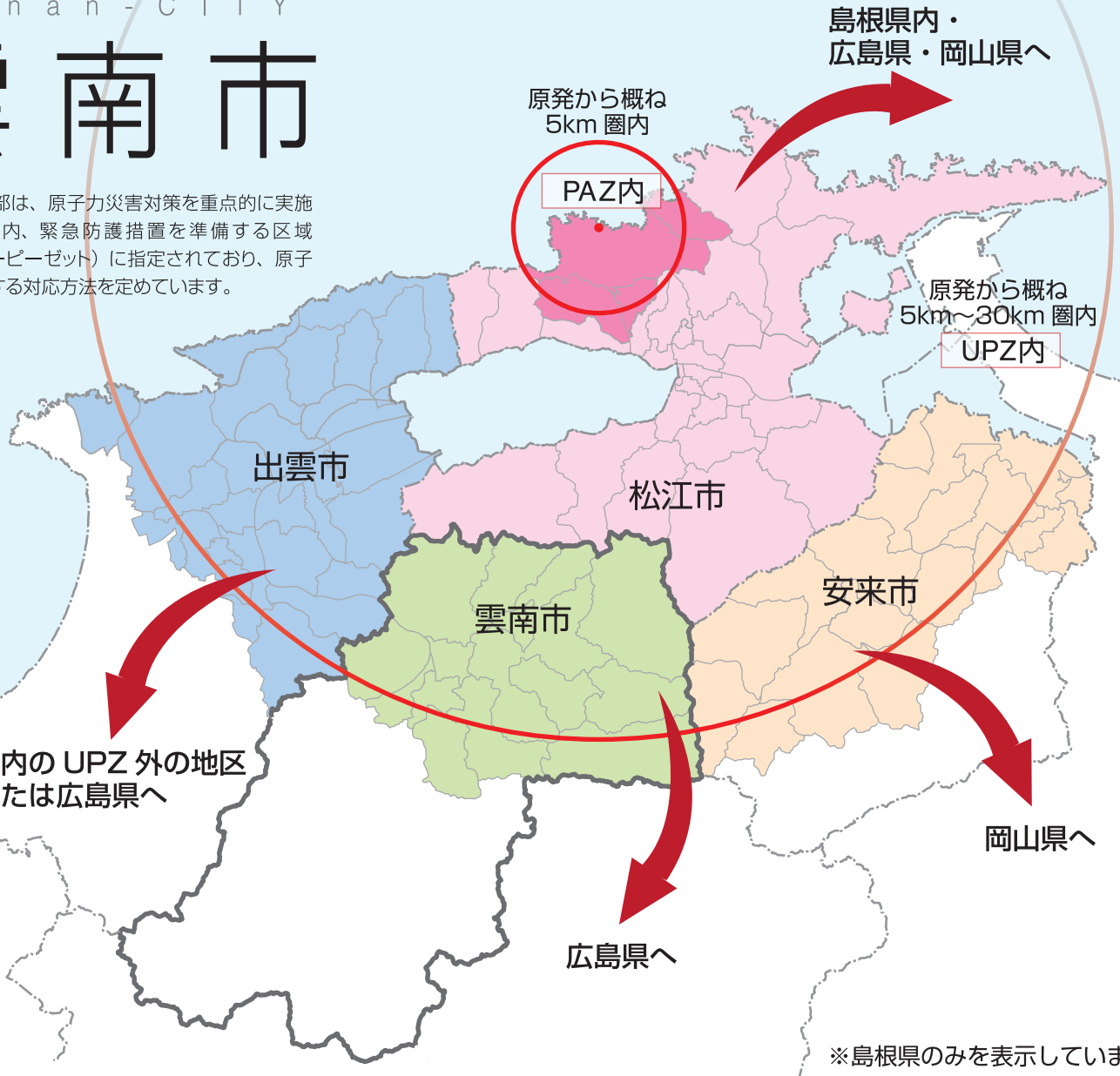


# 雲南市

雲南市の一部は、原子力災害対策を重点的に実施すべき区域内、緊急防護措置を準備する区域 (UPZ：ユーピーゼット) に指定されており、原子力災害に対する対応方法を定めています。



※島根県のみを表示しています。

## 5~30km圏 UPZ の対応方法を定めています

基準以上の放射線を浴びることによる将来的な健康障害を避けるための対応を行います。

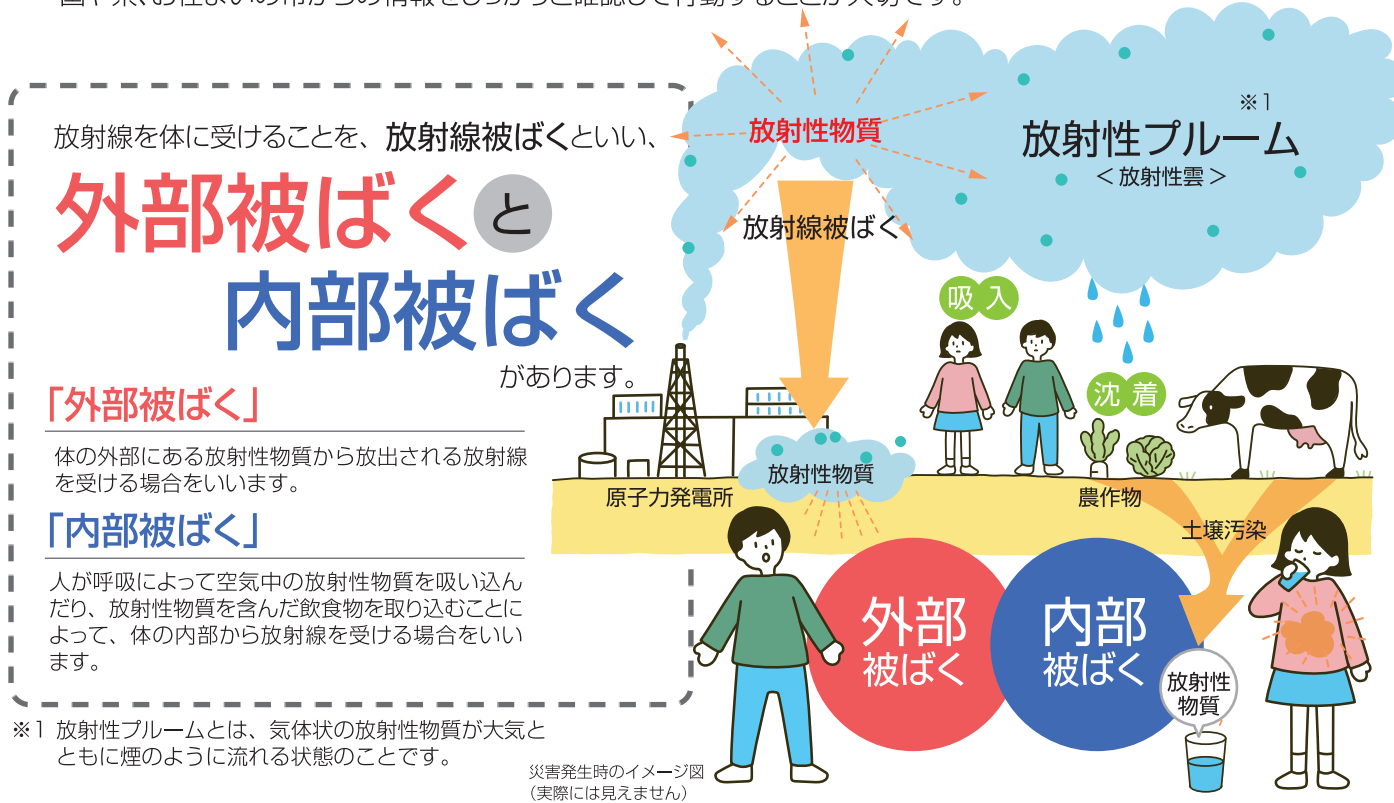
事故の状況 (各状況における事故の例示は2号機)		UPZ 発電所から概ね 5km~30km の範囲
放射性物質 放出前	<b>事故発生</b> 警戒事態 外部電源喪失が 3時間以上 継続など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光客等一時滞在者は帰宅</li> <li>● 生徒、児童、園児は保護者へ引渡しを開始</li> </ul>
	<b>事故の拡大</b> 施設敷地緊急事態 全交流電源の 30分以上 喪失など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安定ヨウ素材の緊急配布準備</li> <li>● 屋内退避の準備開始</li> </ul>
	<b>重大事故の発生</b> 全面緊急事態 原子炉注水機能の 喪失など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民は<b>屋内退避</b>をしながら<b>避難準備</b> (原子力発電所の状況や PAZ の避難状況を踏まえて段階的避難を行う場合もある)</li> </ul>
放射性物質 放出後	<b>原子力災害</b> 全面緊急事態 大量の放射性物質が 環境中へ放出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 放射性物質の放出状況を踏まえ、防護措置を実施すべき区域を設定 .....&gt; 20<math>\mu</math>Sv/h*を超えた地区は 1 週間程度内に<b>広域避難</b>とともに地域生産物の 摂取を制限</li> <li>● .....&gt; 500<math>\mu</math>Sv/h*を超えた地区は<b>広域避難</b></li> <li>● 学校等に残っている生徒、児童、園児は、学校等がある地区の避難先に避難を開始</li> </ul>

※UPZ 外についても UPZ 内と同様に、必要に応じて住民等に対して屋内退避等を実施する可能性がある旨の注意喚起を行う場合がある。  
 ※ Sv (シーベルト) とは、人体が放射線を受けたとき、その影響を表す単位 1Sv (シーベルト) =1,000mSv (ミリシーベルト) =1,000,000 $\mu$ Sv (マイクロシーベルト)

# 1 原子力災害は特殊な災害です

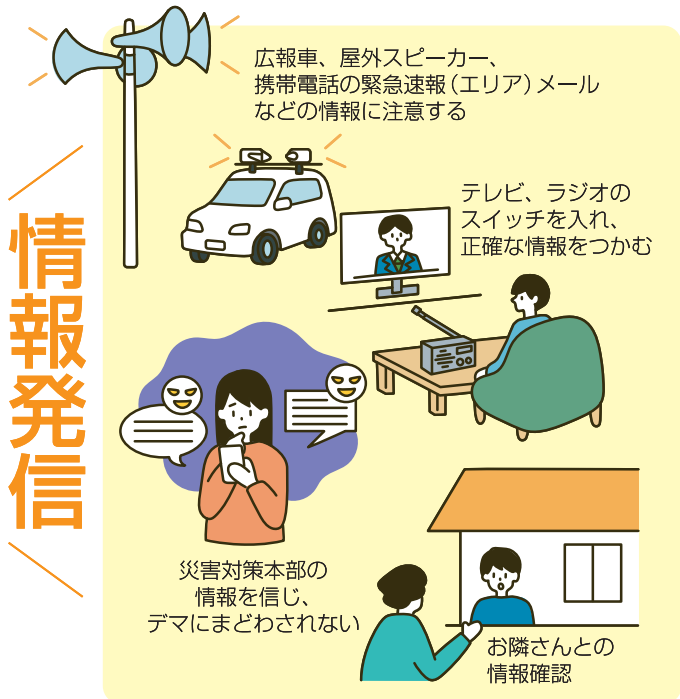
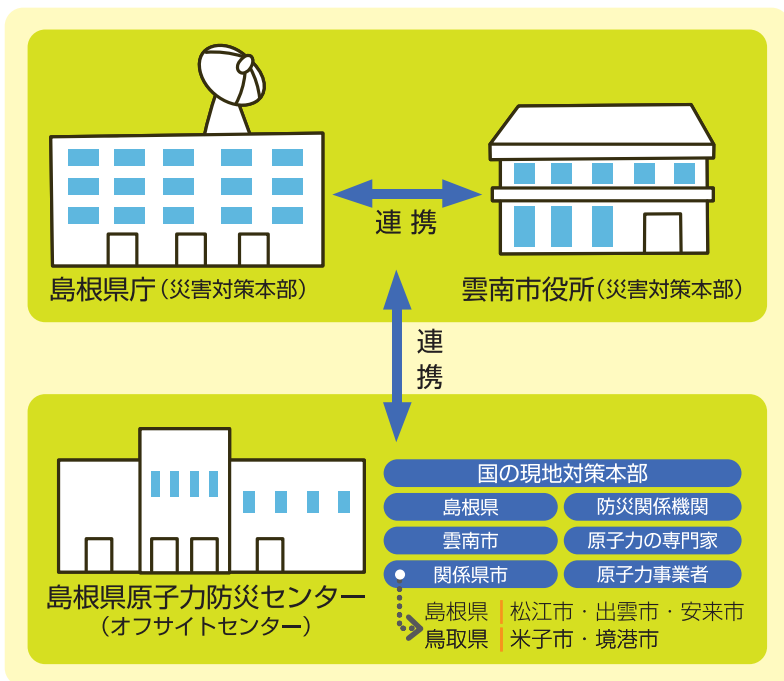
原子力災害は、大気中に異常な水準の放射性物質が放出される事態をいい、地震、風水害などの自然災害とは違い、**五感に感じることができず、身体への影響の程度や、どのように行動すればよいのかを自ら判断できません。**

原子力災害に対処するためには、放射線に関する知識や放射線測定器などが必要なため、各自の判断で行動せず、国や県、お住まいの市からの情報をしっかりと確認して行動することが大切です。



# 2 原子力発電所の事故や災害の情報

原子力発電所で大きな事故が発生した場合や、放射性物質が大量に漏れ出す原子力災害が発生した場合には、国・県・市は災害対策本部を設置し、みなさんがどのように行動すればよいかなど、必要な情報を、テレビ、ラジオ、屋外スピーカー、ケーブルテレビ、防災メール、緊急速報(エリア)メール、広報車など複数の手段を通じてすみやかにお知らせします。日頃からテレビ、ラジオなど複数の手段による情報入手先を確認しておくことが大切です。



# 3 原子力災害時の防護措置

原子力発電所で発生した重大事故の状況や、異常な水準で放出された放射性物質の拡散状況などに応じて、放射線の影響から住民の皆さんを守るため、国・県・市から**屋内退避**や**広域避難**の指示が出ます。屋内退避や広域避難の準備情報は早めに出されますので、あわてず落ち着いて行動することが大切です。

また、状況によっては、飲料水や飲食物（屋外で採れる農産物など）の摂取制限の指示が出されることがあります。

## 屋内退避の指示が出たら

自宅や職場等、建物の中に入りましょう。  
 自然災害の影響で自宅等にいたことが危険な場合は  
 最寄りの指定避難所等に避難したうえで屋内退避をしましょう。

建物の中に入るだけでも放射線の影響を  
 低減することができます。

### 屋内退避の効果

- 一般的には、木造家屋よりコンクリート建物の方が避け効果が高くなります。
- 一斉に避難を開始すれば、大規模な交通渋滞が発生し、交通事故も起こりやすくなります。
- 車両の中は建物の中よりも放射線をさえぎる効果が小さいです。
- 車両の中に長時間いることでかえって多くの被ばくをする可能性があります。

※感染症が流行している状況での屋内退避は、放射性物質による被ばくを避けることを優先し、屋内退避指示が出されている間は原則換気を行いません。



## 広域避難の指示が出たら

地区ごとに雲南市外の自治体に避難することになります。  
 国、島根県、雲南市からの情報をよく確認して冷静に行動しましょう。

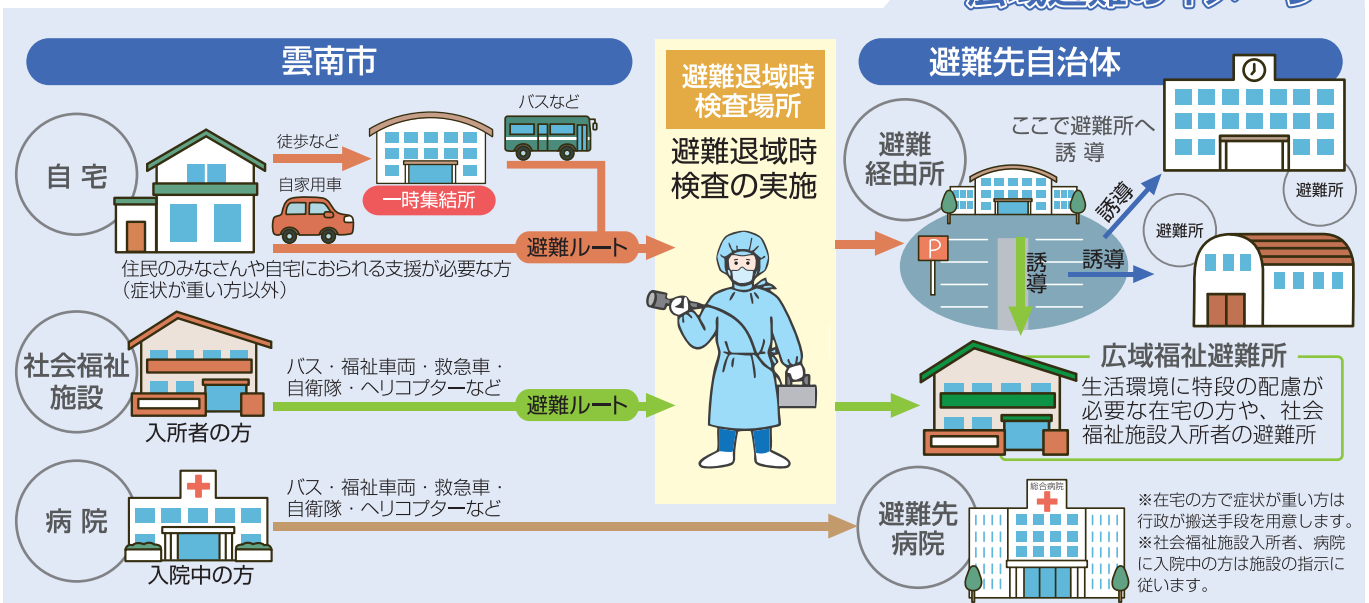
### 自家用車避難を行う方

- 交通渋滞を避けるため、できるだけ乗りあわせをします。
  - 避難ルートを通り、地区ごとに定められた避難先に避難します。
  - 放射性物質の放出後に避難する場合は、車や衣服に基準値を超える放射性物質が付着していないか確認するため、避難ルートの途中で設置された避難退域時検査場で放射線測定器による検査を受けます。
  - 避難退域時検査後、避難経路所に向かい避難所への誘導を受けます。
- ※表面の地図で避難先自治体と、**避難ルート・避難退域時検査場所・避難経路所**を確認してください。

### バス避難（集団避難）を行う方

- 地区ごとに定められた一時集結所に移動し、行政が用意したバス等で避難します。
  - 自家用車避難を行う方と同様に、放射性物質の放出後においては、避難退域時検査場所を経由したのち、避難先の避難経路所において、避難所への誘導を受けます。
- ※表面の地図で**一時集結所**を確認してください。

## 広域避難のイメージ



# 4 広域避難の際の準備等について

避難先では物資の支給が行われますが、早期に支給できないことも想定した避難準備を行っておくことが大切です。原子力災害においても、自然災害時と同様に非常持ち出し品や非常備蓄品の準備などの備えを行うことが大事です。また、避難の際の留意事項も読んでおきましょう。

## 非常食品(家族3日分)



バス避難の際は、乾パンなど火を通さなくても食べられる物で、できるだけ軽いものを準備します。水は避難先や避難途中で確保でき、重たく荷物になりますので必要最小限とします。

## 外衣・マスクの着用

放射性物質による汚染を避けるため、皮膚の露出をできるだけ避ける服装とします。汚染したら外衣などを脱いで汚染を防ぎます。  
※原子力災害特有のもの



## 非常持ち出し品チェックリスト

	品名
貴重品	<input type="checkbox"/> 現金(小銭を含む)
	<input type="checkbox"/> 預金通帳
	<input type="checkbox"/> 証書類
	<input type="checkbox"/> 印鑑
	<input type="checkbox"/> 健康保険証
	<input type="checkbox"/> 免許証
	<input type="checkbox"/> クレジットカード キャッシュカード
	<input type="checkbox"/> マイナンバーカード
電話	<input type="checkbox"/> 10円硬貨 テレホンカード
	<input type="checkbox"/> 携帯電話・充電器
薬	<input type="checkbox"/> 常備薬
	<input type="checkbox"/> 傷薬
	<input type="checkbox"/> 安定ヨウ素剤
非常食	<input type="checkbox"/> 水
	<input type="checkbox"/> インスタント食品
	<input type="checkbox"/> 缶詰
寝具	<input type="checkbox"/> レジャーシート
	<input type="checkbox"/> 毛布
衛生用品・衣類	<input type="checkbox"/> 洗面用具
	<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ
	<input type="checkbox"/> 消毒液
	<input type="checkbox"/> 生理用品
	<input type="checkbox"/> 衣類
	<input type="checkbox"/> 軍手
	<input type="checkbox"/> 簡易雨具
その他	<input type="checkbox"/> マスク
	<input type="checkbox"/> 体温計
	<input type="checkbox"/> 万能ナイフ
	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ
	<input type="checkbox"/> 布バケツ
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯
	<input type="checkbox"/> 裁縫道具
	<input type="checkbox"/> ライター
	<input type="checkbox"/> おむつ・おしり拭き
	<input type="checkbox"/> 粉ミルク・ほ乳瓶
<input type="checkbox"/> このパンフレット	
メモ欄	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>

## Check 01

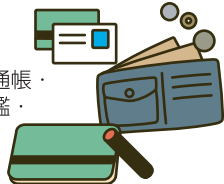


## 非常持ち出し品

バス等による集団避難の場合、持ち出し品が多いと避難が大変です。目安は**男性で15kg、女性で10kg**程度です。  
※自家用車避難の場合は多く荷物を載せることができますが運転に支障のない量とします。

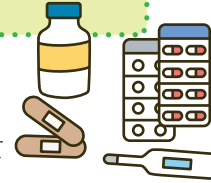
## 貴重品

現金・権利証書・預貯金通帳・免許証・健康保険証・印鑑・クレジットカード・キャッシュカード類など。



## 医薬品など

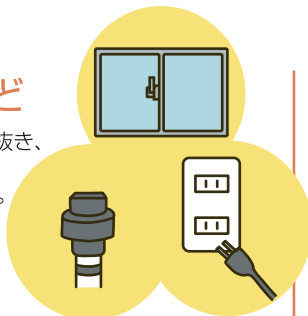
常備薬など避難先ですぐ入手にくい物を優先して準備します。



※乳幼児や高齢者がいるご家庭では、おむつや粉ミルク・介護用品なども準備しましょう。  
※安定ヨウ素剤については、指示に基づき速やかに服用できるよう事前配布も実施しています。

## 戸締まりなど

電気のコンセントを抜き、ガスの元栓を閉め、戸締まりを忘れずに。



## 近隣での助け合い

隣近所にも声をかけ、病気や高齢者の方を助けるなど、お互いに協力しましょう。



## Check 02

## 避難の際の留意事項

### 自主的な避難所運営

避難所は、避難者に安心と安全を提供するとともに、避難者が互いに励まし、助け合いながら生活再建を始めるための拠点ともなります。避難者のニーズに応じ、生活環境を向上させるため、できるだけ早期に、避難者による自主的な避難所運営を行う体制を整えます。

※総合センター・地区毎の災害対策本部や市の職員等と協力し、避難所毎に「避難所運営委員会」を設置します。

## 自家用車避難

放射性物質が拡散している地域を通る際には、窓を閉め、エアコンは内気循環にして外気ができるだけ入らないようにします。災害時にはガソリンなどの燃料が不足する可能性があります。日頃から早めの燃料補給を心掛けましょう。



## ペット

ペットは長期の避難を想定して同行避難をします。バス避難の場合はケージに入れるなど搬送時に配慮してください。  
※えさなどの世話は自身で行います。

